

寒冷地形談話会通信

2003 年度 3 号 [2003 年 10 月 25 日発行]

<http://wwwgeo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>

- ◆寒冷地形談話会通信第 3 号をお届けいたします。
- ◆本号は、2003 年度「夏の学校」巡検報告と「30 周年記念行事」に関するお知らせが中心となっています。
- ◆立山にて開催された 2003 年度「夏の学校」の巡検報告が仕上がりました。なお、この巡検報告は寒冷地形談話会ホームページ上 (<http://wwwgeo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>) においてもご覧になれます。是非ご覧下さい。
- ◆12 月 13 日に明治大学において開催される「30 周年記念行事」について、基調講演の講演者が決定し、ポスターセッションの発表者も何名か決まりました。また、ポスターセッションにおいて発表を希望する方の受け付けを開始いたしました。詳しくは【30 周年記念行事 (第 3 報)】をご参照下さい。

編 集: 小松哲也・黒田真二郎

事 務 局: 黒田真二郎・小松哲也・縫村崇行 (都立大), 佐藤 剛 (千葉大), 澤田結基・橘美由紀・松岡直子 (北海道大), 池田 敦・阿部正洋 (筑波大), 天井澤曉裕・近藤玲介・溝邊貴彦 (明治大), 福井幸太郎 (国立極地研究所)

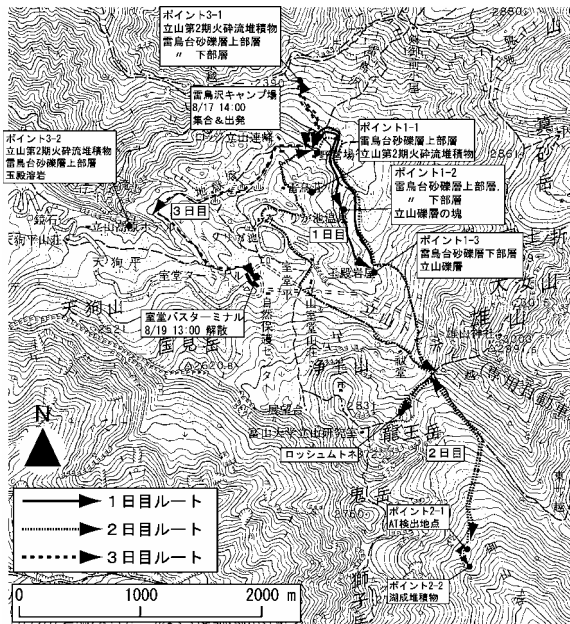
連 絡 先: 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室 寒冷地形談話会 代表 黒田真二郎
kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp (事務局宛) Tel(代) 0426-77-1111 (内)3835 FAX 0426-77-2589 (地理学科事務室)
会費振込: 郵便振替 東京 00100-9-171342 寒冷地形談話会

【2003 年度「夏の学校」】(報告)

2003 年度「夏の学校」(氷河作用研究グループとの共催)の巡検報告です。今年度の「夏の学校」は、立山で行なわれましたが、巡検期間中、近年稀に見る悪天候に見舞われ非常にタフな巡検となりました。詳しくは下記の記事をご参照下さい。なお、この巡検報告は寒冷地形談話会ホームページ上 (<http://wwwgeo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>) においてもご覧になれます。

◆2003 年度「夏の学校」巡検報告

日程: 2003 年 8 月 17-19 日 場所: 立山室堂周辺・御山谷 案内者: 縫村崇行 (都立大), 荻谷愛彦 (千葉大)



8 月 17 日から 19 日までの 2 泊 3 日、立山にて氷河作用研究 G と寒冷地形談話会の合同野外討論会が行われました。今回の野外討論会では室堂周辺の氷成堆積物と火山噴出物、そして御山谷では谷底に降りて、AT が検出されたモレーンや湖成堆積物層のみられた露頭の観察をする計画でした。(案内予定ルート図: 案内予定地点の詳細に関しては Web 上の案内書を参照下さい)

17 日（日）：14:00 に雷鳥沢キャンプ場に集合しました。この日は停滞前線が日本列島を九州から東北まで貫くかたちで位置していたため大雨の中での集合となりましたが、ほとんどの参加予定者の方が集まり、最終的に参加者は 25 名となりました。一日目は浄土沢沿いの立山礫層、室堂礫層、雷鳥台砂礫層の見られる露頭を三カ所観察する予定でしたが雨はいつこうに弱まる気配はなく、結局この日は巡検を行うことができませんでした。

18 日（月）は予定では御山谷に向かい、AT が検出された御山谷の最下位のモレーン（ポイント 2-1）と、そのモレーン西端の湖成堆積物層がみられる露頭（ポイント 2-2）を見ることになっていたのですが、相変わらずの悪天候のため予定を変更し浄土沢沿いの露頭のうちの二カ所（ポイント 1-1, ポイント 1-3）を見て回りました。

ポイント 1-1 では川澄（2000）にて土石流堆積物と呼ばれている雷鳥台砂礫層を観察しました（左写真）。ここの露頭の堆積物に関しては町田・伊藤（1996）と原山ほか（2000）では融氷水流堆積物とされており、解釈が分かれているところでもあります。雷鳥台砂礫層は基本的には基質支持礫層と細粒物質層の互層からなり、川澄（2000）では Tt-E に対比される軽石が含まれていることから 70 ka 頃に堆積した土石流堆積物と考えられています。この露頭の解釈に対して巡検の参加者の方々の意見としては、一部に土石流堆積物と思えるものもあるが、全ての層準が土石流堆積物とは考えにくいという声が多くありました。



ポイント 1-3 では立山礫層の見られる露頭を観察しました。川澄（2000）によると立山礫層は雷鳥台砂礫層の下位の氷成堆積物であり、立山第二期火砕流堆積物の礫を主体とし、堆積時期は 70-95 ka と考えられています。

（←立山礫層を観察する参加者の方々）



今回の巡検で観察した結果、氷成堆積物ではなく火砕流堆積物ではないかという意見が多数を占め、参加者の関心はこのポイント 1-3 より 10 m ほど上流の左岸側に見つけられた氷成堆積物と思われる露頭に集まりました。

この露頭は高さ 2-3 m ほどで、層相は礫経の淘汰

が悪くマトリックスはシルト～粘土でよくしまっている堆積物からなっていました。一部に礫をほとんど含まない細粒物質のみからなる部分もみられ（写真の岩石ハンマーの左の部分）成因についていろんな議論が交わされました。

層相や周囲の地形から考えて、この露頭の見られた砂根山の地形の成因に関して、浄土沢沿いに下った氷河のラテラルモレーンではないかというような意見が出ていました。



19日、雷鳥沢ヒュッテにて解散時にとった集合写真です。今回は下の写真の背景を見てもわかるように悪天の中での現地討論会となり、予定をかなり大幅に変更せざるを得ませんでした。皆さんびしょ濡れになりながらも露頭前では活発な議論を交わすことができ、無事終えることができました。これもひとえに参加者の皆さんの意識の高さがあったからこそだと思います。

最後に今回の現地討論会の企画及び現地での案内について御助言を下さった川澄隆明氏・岩田修二氏に厚くお礼申し上げます。

【30周年記念行事のお知らせ（第3報）】

寒冷地形談話会発足30周年を記念する行事まであと2ヶ月を切りました。事務局の方でも、各担当メンバーのフィールドシーズンが一息ついたため、この記念すべき行事に向けて本格的な準備に取り掛かっております。

今回の「お知らせ（第3報）」では、現時点で決定いたしましたプログラムと、この記念行事で催されるポスター発表の募集案内の2点を中心に掲載しております。詳しくは、下記をご参照下さい。

◆30周年記念行事プログラム

30周年記念行事における基調講演者や現時点でポスター発表をしていただく方々をプログラムに盛り込みました。また、この行事が始まる前に昼食をとっていただけるようタイムテーブルを変更し、記念行事開始時刻を30分遅らせての12:30開始、17:30終了予定としました。なお、基調講演の順番は現段階で暫定的に組んだものであるため、確定したものについては次号の通信にてご報告いたします。同様に、ポスター発表者およびパネリストの方々についても、現時点で決定している方のみをご報告しておりますので確定したものについては次号の通信をお待ち下さい。

◇30周年記念行事プログラム

日程：12月13日（土）

場所：明治大学（駿河台キャンパス，リバティタワー）

12：30～12：35 司会者（目代邦康氏）による全体説明

12：35～13：15 講演（小疇尚氏）

休憩

13：20～14：00 講演（松岡憲知氏）

14：00～15：00 ポスターセッション（青山雅史氏，石川守氏，奈良間千之氏，
福井幸太郎氏ほか）

15：00～15：40 講演（小泉武栄氏）

休憩

15：45～16：25 講演（白岩孝行氏）

休憩

16：30～17：30 パネルディスカッション（総合司会：小野有五氏，パネリスト：未定）

18：00～ 懇親会（明治大学周辺の別会場にて）

◆ポスター発表者募集案内

当会は、寒冷地形談話会発足30周年を記念する記念行事を12月13日に明治大学において開催します。若手研究者および学生等によるポスター発表を予定しております。そこで、当会では、この30周年記念講演会でポスター発表を希望する方を募集いたします。なお、申し込み先などの詳しい内容については、下記の募集要項をご参照下さい。

◇募集要項

形式：ポスターによる発表。A0サイズで1～2枚。（後日，簡単な要旨を提出して頂きます。）

内容：寒冷地や山に関係した研究発表

申し込み方法：1) 氏名（漢字・フリガナ），2) 住所，3) 電話番号，4) メールアドレス，5) 所属，6) 研究発表の題目，を記入した電子メールを下記の事務局アドレスまでお送り下さい。
寒冷地形談話会事務局（kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp）

申し込み期限：2003年11月15日（正午）

*なお、「募集案内」の中で不明な点，お尋ねしたい点などがありましたら寒冷地形談話会事務局（kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp）までご連絡下さい。

【新会員募集中!!】

当会は随時，新会員を募集しております。新規加入希望者は，1) 氏名（漢字・フリガナ）2) 住所 3) 電話番号 4) FAX 5) メールアドレス 6) 所属，を記入した電

子メールを下記の事務局アドレスまでお送り下さい。なお，学部生以下の会員年会費（メール会員）は無料となっております。

kanrei-jimukyoku@egroups.co.jp